

新町支石墓群史跡公園開園記念シンポジウム

支石墓から読み解く 弥生文化の成立

—新町支石墓群のこれまでとこれから—

私の愛称も
発表します！

1000件超の応募
ありがとうございました！

9号人骨復顔像

令和8年

9月26日(土) [10:00~16:00]

【会場】伊都文化会館多目的ルーム
福岡県糸島市前原東2-2-7
(筑前前原駅[北口]から徒歩約10分)

主催／糸島市・新町遺跡保存会

参加費
無料

定員
200名
要申込み

第1部 報告・講演 10:00~

- 10:10 「糸島市の支石墓と新町支石墓群の整備」
平尾和久(糸島市地域振興部文化課)
- 10:40 「2,500年の物語を、次の100年へ—官民共創の史跡活用戦略—」
三嶋直子(新町遺跡保存会)
- 11:10 「佐賀県内の支石墓の特徴と整備・活用」
渡部芳久(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館)
- 11:50 「長崎県内の支石墓の特徴と整備・活用」
寺田正剛(長崎県埋蔵文化財センター)
- 昼休み 12:30~13:30

第2部 新町9号人骨復顔像愛称発表イベント 13:30~14:10

第3部 シンポジウム 14:20~16:00

テーマ
「列島における支石墓の受容と保存・活用」
コーディネーター：常松幹雄(福岡大学非常勤講師)
パネリスト：三嶋直子・渡部芳久・寺田正剛・平尾和久



お問い合わせ・申し込み先：糸島市地域振興部文化課

〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号 TEL:092-332-2093 FAX:092-323-2344 E-mail:bunka@city.itoshima.lg.jp

支石墓から読み解く 弥生文化の成立

— 新町支石墓群のこれまでとこれから —

稲作を中心とする新しい文化が大陸から朝鮮半島を経由して日本列島へ伝えられたことにより弥生時代が始まります。稲作農耕文化の受容は使う道具や風景・言葉などの変化を引き起こし、現在の日本の基礎を形成しています。この弥生文化成立期の北部九州を特徴づけるもののひとつとして、新町支石墓群を代表とする支石墓があります。

今回のシンポジウムでは、新町支石墓群と北部九州に点在する支石墓の比較・検討を行いつつ、支石墓の保存と活用にまでアプローチしていきます。

第1部 報告・講演 10:00～

10:10～ 「糸島市の支石墓と新町支石墓群の整備」

平尾和久(糸島市地域振興部文化課)

三嶋 直子

(新町遺跡保存会事務局長)

10:40～
講演1



「2,500年の物語を、次の100年へ —官民共創の史跡活用戦略—」

新町支石墓群のそばで育ち、大学で考古学を専攻。旧前原市（現糸島市）に入庁し、文化財保護・広報経営企画を歴任。発掘調査のほか『広報いとしま』、副読本『いとしま学』の制作を通じて、地域の歴史を市民に伝える仕事に従事してきた。現在は、イトシマ株式会社の一員として「まちづくりを研究・実装する糸島サイエンス・ヴィレッジ」の実現に取り組みながら、行政と市民それぞれの役割を担ってこそ実る「共創」のまちづくりを模索する。

渡部 芳久

(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館学芸課博物系担当係長)

11:10～
講演2



「佐賀県内の支石墓の特徴と 整備・活用」

佐賀県教育庁に入庁後、特別史跡吉野ケ里遺跡の調査・報告書作成、普及啓発活動に携わり、現在は佐賀県立博物館・美術館の学芸員として活躍する。研究活動としては弥生時代の石器の研究を専門としつつ、集落・墳墓まで幅広い研究を進める。

主な論文に「西北九州における弥生時代後期の石庖丁製作」『東アジア考古学の新たな地平』など。

寺田 正剛

(長崎県埋蔵文化財センター調査課長)

11:50～
講演3



「長崎県内の支石墓の特徴と 整備・活用」

長崎市内の中学校教諭として採用されたのち、長崎県教育庁文化課等において県内の遺跡の調査や文化財保護事務に従事する。その後、長崎県埋蔵文化財センター所長を経て現職。

大学在学中に参加した富の原遺跡の調査を契機として、弥生時代の墓制に関心をもち、箱式石棺墓を軸として集落・墳墓の調査研究を進める。

主な論文に「長崎県地域における箱式石棺墓の様相について」『西海考古』6など。

第2部 新町9号人骨復顔像愛称発表イベント 13:30～14:10

第3部 シンポジウム 14:20～16:00

テーマ

「列島における支石墓の受容と保存・活用」

パネリスト: 三嶋直子・渡部芳久・
寺田正剛・平尾和久



コーディネーター

常松 幹雄

(福岡大学非常勤講師)

福岡市内に所在する吉武遺跡群や西新町遺跡等の重要遺跡の調査に携わりながら、弥生時代の墳墓や青銅器から土器絵画に至るまで幅広い資料から弥生文化の実像の解明に取り組む。現在は小学校への出前授業に取り組みつつ、非常勤講師として後進の育成にあたる。

主な論文に「弥生時代の青銅武器副葬」『季刊考古学』135 など。